

東日本地域の大学・短大・高専の教育改善を推進する

FD ネットワーク “つばさ”

Innovation on Higher Education in East Japan

研 究 年 報

2023

山形大学教育推進機構

目 次

目 次

第1章 令和5年度実施事業	1
第2章 加盟校による令和5年度のFD活動	3
第3章 FD協議会	21
FDネットワーク“つばさ”加盟校一覧	24

第1章

令和5年度実施事業

令和5年度実施事業

FDネットワーク“つばさ”では、47校の大学・短大・高専の連携により、以下のFD事業を実施した。

(1)FDワークショップ

【開催日】令和5年9月11日(月)

対面及びZoomによるハイブリッド形式開催

第1部 基調講演

演題:「生成系 AI と大学教育～外国語教育やレポート作成に及ぼす影響～」

講師:谷口 ジョイ 氏

静岡理科大学 情報学部 准教授

第2部 ラウンドテーブル

第1分科会

「香川大学発 DRI 教育のススメ」

コーディネーター:山形大学学士課程基盤教育院 准教授 安田淳一郎

パネリスト:香川大学大学教育基盤センター長 高橋 尚志

第2分科会

「「やまがた AI 部」の取組」

コーディネーター:「やまがた AI 部」運営コンソーシアム事務局

山形県立産業技術短期大学校 校長 佐藤 俊一

パネリスト:「やまがた AI 部」運営コンソーシアム事務局

山形県立産業技術短期大学校 校長 佐藤 俊一

第3分科会

「国、大学、高校のアントレプレナーシップ教育の現状と展望」

コーディネーター:山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター
センター長・教授 小野寺忠司

パネリスト:文部科学省 科学技術・学術政策局 産学連携・地域振興課
産業連携推進室 専門官 鈴木 慎司

:東北大学大学院工学研究科 インターナショナルオフィス
副室長・教授 森谷 祐一

:学校法人新庄学園 新庄東高等学校
校長 田宮 邦彦

【参加者】第1部97名(22校)

第2部 第1分科会14名(8校)

第2分科会16名(8校)

第3分科会27名(6校)

(2)FD協議会

○第30回FD協議会

【開催日】令和5年6月30日(金)

対面及びZoomによるハイブリッド形式開催

【内容】

第1部 協議会

第2部 事例紹介

「データサイエンス教育研究推進センターの取り組みについて」

山形大学学術研究院理学部 教授 脇 克志

「基盤力テストについて」

山形大学学術研究院 教授 浅野 茂

【参加者】第1部46名(30校)、第2部55名(28校)

○第31回FD協議会

【開催日】令和6年3月15日(金)

Zoomによるオンライン開催

【内容】

第1部 協議会

第2部 事例紹介

「「FD ネットワーク“つばさ”」と「山形大学IE 推進センター」
との関わりについて」

山形大学学術研究院 教授 浅野 茂

「令和5年度学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」の動画紹介」

札幌大学学生チーム

【参加者】26名

(3)学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」

【開催日】令和6年2月20日(火)

学生発表参加者は対面

視聴者は対面及びZoomによるハイブリッド形式

【場 所】山形大学小白川キャンパス(山形県山形市)

【出場校】札幌大学、明海大学、東北芸術工科大学、山形大学
計9チーム

学生 37名 教員 8名 視聴者(Zoom)3名

(4)その他

○週間・授業改善リレーエッセイ

寄稿校:20校掲載(FD ネットワーク“つばさ”ホームページ)

第2章

加盟校による 令和5年度のFD活動

札幌学院大学

令和5年度の活動について

2月に外部講師を招聘し、FD研究会をオンラインで開催したほか、昨年度に引き続き、年2回の授業評価アンケートを実施、継続事業も含めて、以下の取組を行った。本学は2キャンパスで展開しているため、教職員が一堂に会することが難しく、オンラインを中心とした活動となっている。

(1) 授業評価アンケートの実施

年2回の授業評価アンケートは、履修者6名以上の全学部開講科目を対象として、Web調査によって実施した。Webでの調査は、回答者の利便性向上が図れることや集計作業においても負担軽減に繋がるが、回収率が低い点が問題となっており、周知方法や実施方法を含めて検討、試行錯誤を重ねてきた。今年度は教室の机の上にQRコードを貼付し、回答を促したが、昨年度より低い回答率にとどまっており、大きな改善は見られなかった。

なお、令和6年度以降の授業評価アンケートについて、学内で改定を検討することとなり、「評価結果の活用」を当委員会が行い、評価の実施（実施方法及び内容を含む）を全学教務委員会が行うこととなった。

(2) FDを推進するための活動補助事業

積極的に授業改善に取り組もうとする教員の動機づけを促すとともに、実践の中から得たノウハウや知見を全学的に共有することによって、大学全体の教育の質向上を図ることを目的とした事業である。今年度は1件の応募があり、教育改善に寄与することができた。取組み内容は年度末に活動報告会を行う予定である。

(3) 各学部学科における10分FDの充実

各学部教授会や学科会議等の会議時間を活用して「10分FD」を実施している。授業運営等、教員の教育力向上を図るとともに学部・学科間の教育上の情報共有を行うことを主眼としている。10分FD実施後は、報告書を作成・提出を求めるとともに、FD充実の一つとして、報告を全学部学科で共有した。

(4) 学生相談室活動報告・情報交換会 FD/SD 研修会

学生相談室主催のFD/SD研修会を前期と後期にオンライン開催した。前期は「留学生の理解と支援」をテーマに留学生の抱えやすい困難の理解、今後の支援について共有を行った。後期は「学生の考える力を高めるための関わり」をテーマに、事例を通して、昨今の学生の抱える困難や対応について学び、今後の支援について共有を行った。

(5) 発達障害のある大学生への修学就職支援に関する

FD/SD 研修会

アクセシビリティ推進委員会主催のFD/SD研修会をオンライン開催した。令和3年度から入門編、応用編と実施し、今年度は発展編として、入学から修学、そして就職を支えるための部署間連携について研修を行った。なお、全教職員が参加できるよう、研修会はオンデマンド配信も行った。

(6) FD研究会・SD研修会

「関係の取りにくい学生へのコミュニケーションデザイン」をテーマに学外から講師を招聘し、FD研究会・SD研修会をオンライン開催した。コミュニケーションデザインについての講義の後、少人数に分かれて、コミュニケーションワークを実施した。なお、全教職員が参加できるよう、研修会はオンデマンド配信も行った。

キャンパスが分かれていることにより、オンラインを中心とした研修が主となっているが、方法を工夫し、学びやFD活動の継続を引き続き行うとともに、各教員の取り組みや工夫を共有し、来年度の授業改善につながることを期待している。学生たちの意見を取り入れた仕組みづくりについて、本学では検討が必要な時期となっている。少しでも教育効果が上がるよう学びの環境を整えていきたいと考える。

<主なFD活動>

- ・7月 前期授業評価アンケート実施
- ・7月27日(木) 発達障害のある大学生への修学就職支援に関するFD/SD研修会【教職員88名参加】
- ・9月5日(火) 学生相談室前期活動報告・情報交換会FD/SD研修会(留学生の理解と支援)【教職員43名参加】
- ・12月下旬～1月下旬 後期授業評価アンケート実施
- ・2月16日(金) FD研究会・SD研修会(関係の取りにくい学生へのコミュニケーションデザイン)【教職員35名参加】
- ・3月中 令和6(2024)年度「FDを推進するための補助事業」募集
- ・3月5日(火) 学生相談室活動報告・情報交換会FD/SD研修会(学生の考える力を高める関わり～我々教職員に出来ること～)【教職員28名参加】
- ・3月22日(金) 令和5(2023)年度FDを推進するための活動補助事業&FDフォーラム報告会(開催予定)

北翔大学・北翔大学短期大学部

FD支援委員会 委員長 松澤 衛

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の制約が大幅に緩和され、本学FD活動も例年規模に戻りつつ、本学学生FDスタッフ「アンビエント」においても少しずつ活動の再開を進めている状況にある。

1. FD/SD 研修会

本学では教職員のスキルアップを以て学生に還元すべく、例年数回「FD/SD 研修会」を開催している。

(1) 初任者研修

新任教員に向けて「本学沿革と大学を取り巻く状況」「本学の教育課程と授業」「本学FD活動」等に関する説明会を開催した。

(2) 学修成果可視化とアセスメントポリシー策定

コロナ禍以降、本学においては数年ぶりに外部識者を招聘して研修会を開催した。

学習成果可視化が求められる背景や他大学での事例など貴重な話題があり、本学での現状など危機感を持って対応する必要性など、多くの教職員から様々な感想が挙がった。

(3) 「障がい学生支援に関する説明」をテーマとして、配慮が必要な学生の事例紹介など研修会を開催した。

- ・障がいの社会モデル
- ・改正障害者差別解消法
- ・本学の取り組み状況および課題
- ・事例紹介 など

2. ICT 相談会

授業に効果的な ICT 機器活用術やソフトウェアの最新動向などをレクチャ／質疑応答、並びに個別対応など「ICTに関する何でも相談会」を月数回程度オンラインで開催した。「Excel 操作」から「非言語プログラム」関連の話題など、今年度は40回以上開催した。

また、アドビ社から講師を招き「生成 AI」を活用したデザインツールの体験セミナーも特別開催した。

3. 授業改善アンケート

本学ではウェブアンケート方式にて、年2回（前学期/後学期）開催した。

授業形態により回答率は異なるが、過年度は履修者数のおおよそ10%～50%程度であったことから「回答率向

上」が近々の課題であった。

施策を試行錯誤し、「授業時間内にアンケート回答時間を設ける」ことを開講教員に推奨したところ、回答率が顕著に向上したように見受けられた（授業出席者がほぼ全員回答など）。

引き続き回答率向上について模索していきたい。

4. 学生 FD 活動

冒頭で触れた本学学生FDスタッフ「アンビエント」は、学生視点で様々なFD関連イベントを学内外に向けて開催している。

今夏「10年後の北翔大学を考えてみよう」というテーマで学生教職員が集い、7グループに分かれ2ヶ月程度かけて実現可能なアイデア出し（ブレインストーミング）／意見交換（ブラッシュアップ）などプレゼンテーション資料を作成し、学長に向けてプレゼンテーションを行った。

「学生が直面している問題」から「教職員では思いつかないであろう突飛なアイデア」「スケールの大きい構想」など様々なプレゼンテーションが発表され、その場に居合わせた本学役員も興味深くメモを取っていた。

この取組では大学の将来を担う「若手職員」を関与させ、自身の部署を超えて俯瞰的に大学を見てほしいという期待も含まれている。



5. 今後の活動課題

学生は「コンピューターネイティブ世代」にシフトしていき、ICT機器やソフトウェアも新しい機能が次々とリリースされ、本学教職員においてはICT関連の技量を絶えずアップデートしていかなければならない。本学の特性や現状を鑑み、今後も研修会／相談会に注力しつつ更なる底上げを図りたい。

延いては学生満足度向上につながるものとする。

仙台大学

教育改善運営委員 金 一坤

本学では、教員を中心にFD活動を実施している。主な活動は、(1) 学内FD研修会の企画運営実施、(2) 学修状況調査の概要報告(3) 授業改善アンケートの実施、(4) シラバス・ルーブリック作成の支援、(5) FD活動の広報・周知である。

(1) 学内FD研修会の企画運営実施

本年度は、次の3つの研修会を実施した。

① 新任教員FDセミナー

4月4日(月)に今年度着任した新任教員を対象としたスタートアップ支援FDセミナーを開催した。本学のカリキュラムをはじめとする教務に関する事項とFD活動等について説明をした。

② 授業改善FD研修会

9月19日(火)に情報・データサイエンス教育運営チームと共催で研修会を開催した。講義型、実習型に分けて2022年度の授業評価アンケートが高評価の先生に講師を依頼し、実際の教育事例などの説明を行い、情報・データサイエンス教育運営チームからは、ICTツールの活用とその留意点について、説明を行った。

③ 授業づくりのためのFD研修会

本学では、学生と教員が参加する研修会を毎年開催している。今年度は、「学生の個人情報端末を利用した学修への効果と課題とは」をテーマに掲げ、12月12日(火)に研修会を開催した。対面で教員と学生が集まり、教員と学生を交えたグループをつくり、ICTツールを活用し、ディスカッションを行った。

(2) 学修状況調査の概要報告

本学では6月7日(水)から7月12日(水)にかけて、学生に対する支援と指導のために日常の学生の学修状況について、基礎的な資料を得ることを目的とした学修状況調査を全学生にWebアンケートにて実施した。調査結果には、回答率が約73%となり、9月19日(火)に開催した教授会で報告を行った。この調査結果を通して、学年、学科、希望する進路、スポーツ活動の有無等と学修状況との関係が示された。

(3) 授業改善アンケートの実施

原則としてすべての科目を対象に「FDネットワーク“つばさ”」のフォーマットで「授業改善アンケート」を受講学生全員に実施した。個々の授業の改善を目指し、授業内容・教授方法に対する学

生の反応を探ることが、本アンケートの大きな狙いの一つである。

結果は、本学独自の「授業改善アンケート活用フォーム」を用いて、集計結果を基に各教員が担当科目と全体平均などとの比較が出来るようになっている。

実施期間：年2回

- (1) 令和5年7月10日(月)～令和5年7月27日(木)
- (2) 令和5年1月18日(木)～令和6年1月31日(水)

(4) シラバス・ルーブリック作成の支援

教育改善企画運営委員会では毎年次年度の様式や記載内容の項目について検討し、統一様式により、原則すべての開講科目について作成を依頼している。学生にとってよりわかりやすいシラバス・ルーブリックとするために、本年度も教員に配布しているシラバス・ルーブリック作成要領(「シラバス・ルーブリック作成の手引き」)の見直しを行った。なお、シラバス・ルーブリックは本学ホームページにも掲載し、保護者等も閲覧できるようにしている。

(5) FD活動の広報・周知

① FD広報冊子の作成

本学では、FD広報冊子(SUFD Report)を年に1度発行している。本年度発行するもので第9号となる。この冊子の発行の目的は、本学の教育改善企画運営委員会が実施しているFD活動の内容を、学内外に周知することである。

② 学外のFD研修会情報の提供

学外において開催されているFD研修会についての情報提供を行っている。メールやポスター等で届いた開催案内を教員向けに整理し、全教員を対象にメールで周知をしている。今年度については、1名の委員が「第25回基盤教育ワークショップ」にオンラインにて参加した。



令和5年度授業づくりのためのFD研修会の様子

東北生活文化大学・ 東北生活文化大学短期大学部

FD委員 川又 勝子

本学では、FD委員会が中心となってFD・SD活動の推進を目指し、令和5年度は以下のような活動を行った。

1. 授業改善アンケートの実施

1) 実施期間

- ・前期 | 令和5年7月24日～8月10日(集中講義期間まで)
- ・後期 | 令和6年1月18日～1月31日

2) 概要：本年度の授業改善アンケートは、各授業最終時およびその後1週間の間に実施された。対象科目は、専任・非常勤を問わず受講者10名以上の全授業科目とした。なお、受講者数10名未満で実施されたアンケート結果については参考に留めることとした。

令和3年度からGoogle Formsを利用したオンライン調査を行っていたが、回収率の低迷が課題とされていた。そのため本年度は質問紙を配布・回収するアンケート形式を採用した。また、学生の負担を軽減するために、質問内容を必要最小限にするための検討も行った。その結果、当初の目的どおり回収率は昨年度を大きく上回ることとなった。アンケートのアナログ化に伴う集計作業についての懸念もあったが、本学のような小規模大学・短大においては、それほど大きな問題とはならなかったようである。

現段階では次年も本年度同様紙ベースでのアンケート調査を実施することとし、記載事項(質問内容を含む)等について再検討し、教員の教授能力・技能の向上につながるようなアンケートを実施できるよう準備をしていくこととなっている。

2. 公開授業の実施

1) 実施期間

- ・前期 | 令和5年6月19日～6月23日
- ・後期 | 令和5年11月13日～11月17日

2) 概要：例年と同様に公開授業実施期間を設け、専任・非常勤を問わず授業の公開を依頼した。また、全教職員・非常勤講師に対して積極的な授業への参観を依頼し、参観後は担当教員と参観者との情報交換・検討会を依頼した。その時間が取れない場合は授業後に「参観メモ」を授業担当者に提出することとした。

前述の授業改善アンケート同様、教員の教授能力・技能の向上に活かされ、また他学科・他専攻での学習内容に対

して相互理解を得る機会ともなった。

3. 「FDセミナー」「FD・SDセミナー」の実施

本学では、教員間の教育・研究に関する相互理解を図るための「FDセミナー」と教職員の研修機会としての「FD・SDセミナー」を実施することになっており、当年度は以下のとおり実施した。

1) FDセミナー

(1) 新任教員による研究・教育紹介

- ・令和5年6月9日および7月14日(各2名)

(2) 外部講師による講演

- ・令和5年11月10日「たばこの健康被害」の演題で専門医による講演が行われた。

(3) 学務室長による講演

- ・令和6年2月7日「ティーチング・ポートフォリオについて」

(4) 学内研究奨励賞受賞者による研究発表

- ・令和6年3月6日(2名)

(5) 教育改革推進研究奨励賞受賞者による研究発表

- ・令和6年3月19日(2名)

2) その他

(1) FDネットワーク「つばさ」FD協議会

- ・令和5年6月30日にオンライン参加

4. FD活動報告書の編集と刊行

令和5年度の授業改善アンケートの結果に関する報告や、公開授業または教員セミナーでの発表を「FD活動報告書」として編集し、令和6年6月の刊行を目指している。

5. 今後の展望

かねてより懸案事項であった授業改善アンケートの実施方法について、本年度大きく転換を図った。学生から得られる回答は、本学の教育活動をより良いものとするための貴重な意見である。今後は、質問事項や表記について精査し、結果分析方法についても検討するなど、学生からの貴重な意見を教育により効果的に反映させるための方法について検討していきたい。

また、公開授業についても公開授業数と参観者数を増やす方策について検討し、一層充実を図りたい。

今後も本学をより良い大学とするために、FD活動をとおして全教職員の協力・連携を強化し、教育活動の改善を目指すことを継続する。

山形県立米沢栄養大学
山形県立米沢女子短期大学

米沢女子短期大学自己評価改善・SDFD 委員長 石崎 毅

山形県立米沢栄養大学と山形県立米沢女子短期大学では、教職員を対象とした研修会や活動を原則、合同で行っている。今年度は以下のような研修会及び活動を行った。

令和5年度の研修会・活動

4月・情報セキュリティ研修会（対面・オンライン、O/D）

『情報セキュリティの脅威から身を守る』

講師：株式会社管理システム

システムソリューション課 佐藤洋也 氏

5月・研究倫理コンプライアンス研修会（短大、対面）

6月・前期学生の声アンケート（7月末に学生へ回答）

7月・前期授業評価アンケート

8月・前期集中授業評価アンケート

9月・授業改善研修会（短大、対面・オンライン、O/D）

『教育の内部質保証体制のさらなる充実に向けて』

講師：学長 阿部宏慈 先生

『ルーブリックの実践事例』

講師：社会情報学科 准教授 西川友子 先生

・授業改善研修会（栄大、対面・オンライン、O/D）

『管理栄養士国家試験の出題基準（ガイドライン）改定に関して』

講師：金沢学院大学 栄養学部栄養学科

特任教授 木戸康宏 先生

・研究倫理コンプライアンス研修会（栄大、O/D）

11月・後期学生の声アンケート（1月に学生へ回答）

1月・後期授業評価アンケート

2月・後期集中授業評価アンケート

・ハラスメント防止研修会

『セクハラやパワハラなど、職場における人権問題』

講師：山形地方法務局米沢支局

総務課長 高橋富士子 氏

授業改善研修会の実際

9月21日に授業改善研修会を行った。内部質保証体制のさらなる充実を目指し、その内容には本学の教員による2本の柱となる講話を設けた。1つ目は阿部宏慈学長による「基礎的かつ本質的な講話（内部質保証のさらなる充実に向けて）」であり、2つ目は社会情報学科の西川友子准教授による「具体的取り組みについての講話（ルーブリックの実践事例）」である。

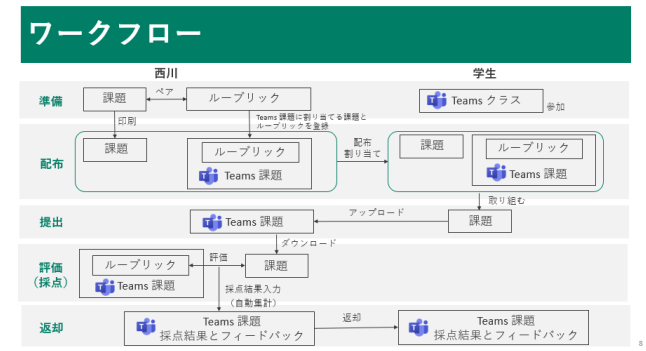
阿部学長の講話では、最初に内部質保証のひとつである学生の学修成果の水準を設けることについて、「DeSeCo」が示す、人生を成功させ、社会が正常に機能するうえでカギとなる重要なコンピテンシー」及び「PISAの結果」、「社会からの要請」、「学位授与方針(DP)」などと関連付け、その必要性和重要性が示された。さらに、他大学の事例を紹介するとともに、それらを本学の実践の参考とするための方向性を示すべく、「シラバスに明示すべきこと」や「成績評価可視化の方針・方法」、「ルーブリック設定の意図」などが説明された。

求められる方策

- ・ 教育成果の可視化のための方策整備
- ・ 学修者本位の教育
教員が教えたいのではなく、学生が学ぶべきこと。
- ・ 相互的評価の体制整備
教員が学生の学びを評価し、学生が教員の教育を評価する。
- ・ 学修到達度の自己評価
学生自身が自らの獲得した能力を確認評価する。
- ・ そのためのツールとして：学修ポートフォリオ等（ルーブリックも含む）の整備

<講話「内部質保証体制のさらなる充実に向けて」より>

以上のことをふまえ、西川准教授の講話では、ご自身が2017年度に計画案を作成し、2018年度より現在まで実践継続しているルーブリックの事例をもとに、その有効性と具体的な方法の説明がなされた。有効性については、「学習者自身が授業で身に着けるべき力が具体化され認知したうえで授業参加するため、その学びは深まる（アクティブラーニング）」ことや「評価の一貫性が確保されることで、学習者が指導者と同じ規準及び基準で評価を受け止めることができる」という実体験が報告された。また、ワークフロー（下図参照）を用いて、「課題設定」から「課題配付」、「課題提出」、「評価（採点）」、「課題返却」までの流れを具体的な事例に照らし合わせて説明がなされたことにより、参加者は自身の科目に置き換えたときにどのような相違が生まれるか、自身で実践するときにはどのような工夫をすればよいのかを表象に描くことができた。



<講話「ルーブリックの実践事例」より>

おわりに

研修会の実施に当たっては、学外から講師をお招きすることは効果的な研修会に寄与することは明確であるが、学内で研修を完結させることは、企画、運営、参加への負荷が適切に調整されるとともに、参加者が研修内容をより身近に受け止めることができるという利点があることを知ることができた1年間であった。研修は研究や授業、社会貢献とともに重要である。そして研修には講師を引き受けてくださる先生が不可欠である。ご講話くださった学内外すべての先生方へのお礼の言葉をおわりの挨拶としたい。

「ありがとうございました。」



<「授業改善研修会（9月21日）」より>

鶴岡工業高等専門学校

教育改革FD委員会 森永 隆志

1. FD活動の基本方針と年間活動項目

～新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて～

今年度の本校の授業運用形態としては、コロナ禍前の対面授業での対応が中心となっていた。遠隔授業については必要に応じて学校に事前申請を行った上で、必要に応じて実施する形での運用となっている。本校では現在でもTeamsの運用を続けており、授業並びに学生指導において積極的に活用されている。

筆者も令和2年から今年度までの4年間に及ぶクラス担任を終え卒業生を送り出したが、思い返すと学生全体への情報共有、個別の連絡などに欠かせないツールであったと感じている。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、教育現場の運営という観点においては従来の形に戻ったことになるが、コロナ禍という困難な局面を経験し、そこから得た様々な工夫や技術的な進歩は目覚ましいものであり、今後も教育環境のデジタル化推進の流れは続くものと思われる。

令和5年度のFD関連活動は以下の通りである。

- 4月 新任教員研修（4月着任教員対象）
- 5月 学級担任ガイダンス
- 9月 前期開講授業アンケート
- 10月 FD講演会（創立60周年記念事業）
- 11月 教員相互による授業参観
- 1月 ピアサポーター育成に関するSD研修
- 2月 FD研修会（PBL講義担当者向け）
- 3月 後期開講授業アンケート
教育資料の点検／卒業研究ノート
保存資料（答案・レポート等）の点検

2. 活動の概要について

～協定機関との連携によるFD活動の展開～

上述のように、コロナ禍をきっかけとして様々な取り組みに対してデジタル化の推進が求められる社会情勢に鑑みて、本校は、令和5年9月21日（木）に株式会社野村総合研究所（以下、野村総研）との間で、デジタル時代の人材育成と地域発展への貢献を推進するための連携活動に係る「人材育成、地域貢献に関する協定」を締結した。本協定は2019年に締結した協定を引き継ぎながら、野村総研が有するDXやコンサルティングの強みを活かした人材育成について、より積極的な連携・支援を試みようとするものである。

野村総研は令和元年10月に、デジタル時代における新たな地方創生の取り組みを発表した。これからの地方創生

においては、高い生産性が期待できる「ローカルハブ」に位置付けられる自治体を中心となって、「デジタルガバナメント」を実現していくことが重要であるとし、令和元年12月12日に「ローカルハブ」としてのポテンシャルを有する鶴岡市との間で、連携活動に係る基本合意書を締結している。本校は、鶴岡市・庄内地域の発展に必要な人材を輩出する機関として、今後は産学官をつなぐ人材の育成や地域産業のプラットフォーム形成を通じて、地方創生に貢献することが期待されている。具体的な連携および支援の内容は以下の通りである。

1. デジタルを中心とした人材育成
2. 地域の産学官連携
3. 地域貢献に資する高専改革



図1. 協定調印式の様子

本校では明確な答えが存在しない問題に対して、グループワークなどのディスカッションを通して取り組む問題解決型学習（PBL）として、総合工学という名称の科目を開講している。その中でも特徴のある取り組みとして「ビジネスプラン」が挙げられる。今年度は連携のさきがけとして、ビジネスプランに関するPBLを担当する教員を対象としたFD研修を実施した。

具体的には、野村総研より紹介・派遣して頂いた専門の講師による、ビジネスアイデア形成の講義とグループワークを2日間に亘り受講した。最終日には各班のビジネスプランを発表し、参加者の間でのフィードバックを経て、お互いのプランの良いところと改善点を確認した。

3. 今後の展開

本校においても、既に文部科学省が推進する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定のリテラシーレベルを取得し、応用基礎レベルに対応したカリキュラム編成に取り組んでいるところである。対応する内容は、ビッグデータを活用したデータサイエンス、機械学習や深層学習をはじめとするAIの活用など、多岐にわたるものである。今後は、外部の専門講師との連携により、社会の要請に高いレベルで応える教育活動を展開していきたい。

桜の聖母短期大学

学務部長 坂本真一

桜の聖母短期大学は、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会に源をもつ学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダムの設置する学校であり、「カトリックの精神に根ざした人間観・世界観に基づく知的・倫理的見識を養い、豊かな心と深い教養をもって、愛と奉仕に生きる良き社会人を育成すること」を建学の精神としている。

建学の精神を踏まえた「教育内容の充実」のために、令和5年度は次の(1)～(6)のFD活動を実施した。

1. 本学独自のWeb方式による授業改善アンケートの実施
2. 各学科・専攻におけるカリキュラムマップを活用した教授ポートフォリオの作成
3. 1. 2. を踏まえた各学科・専攻における授業の改善を図るためのFD研修会の実施
4. 各学科・専攻における公開授業・授業参観の実施
5. 短大全教職員研修、短大新任教職員研修の実施
6. 全学院*新任研修、全学院**研修への参加
7. FD関連研修会への参加

※全学院＝本学を設置する学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダムは、福島県福島市、東京都調布市に次のとおり複数の学校を設置している。本報告における「全学院」は、設置する学校のうち福島県福島市に所在する学校を指す。

【福島県福島市】桜の聖母短期大学、桜の聖母学院中学校・高等学校、桜の聖母学院幼稚園・小学校

【東京都調布市】マルガリタ幼稚園

以下、今年度の具体的活動について報告する。

1. 本学独自のWeb方式による授業改善アンケートの実施
令和3年度まではFDネットワーク“つばさ”による授業改善アンケートを実施してきたが、令和4年度より本学独自のWeb方式の授業改善アンケートの実施を開始した。アンケート結果は授業担当教員へフィードバックし、各教員が自己点検・評価を実施して学務部に提出した。
2. 各学科・専攻におけるカリキュラムマップを活用した教授ポートフォリオの作成
学習成果の獲得状況を可視化する一環として作成している各学科・専攻のディプロマ・ポリシーと授業科目の関

係を一覧にしたカリキュラムマップを活用し、そこに各授業担当教員が科目レベルの学習成果達成度を記入して教授ポートフォリオを作成した。

3. 各学科・専攻における授業の改善を図るためのFD研修会の実施

授業改善アンケートの結果と教授ポートフォリオを活用して、各学科・専攻において、各期末に授業改善を図るためのFDを実施した。

4. 各学科・専攻における公開授業・授業参観の実施
各学科・専攻において公開授業・授業参観を実施し、参観後の意見交換や授業参観報告書をとおして授業改善に取り組んだ。

5. 短大全教職員研修・短大新任教職員研修の実施

①短大全教職員研修

図書館情報センター長を講師として「学生の図書館利用促進に関するFD～図書館からのオ・ネ・ガ・イ～」を開催

②短大新任教職員研修

学長、学務部長、学生支援部長、キャリア教養学科長補佐(新任教員所属学科)による新任教員研修を行った。

また、新任職員も含めた新任教職員に対する建学の精神に関する研修を以下のとおり実施した。

- ・学長主催の研修を2回(うち1回は個別面談)
- ・カトリック委員会主催の研修を2回

6. 全学院新任研修、全学院研修への参加

①全学院新任研修

法人事務局による新任教職員対象の研修会が年度当初に行われた。短期大学採用の教職員も参加した。

②全学院研修

年度当初に、設置法人の主催により、全教職員が学院の建学の精神と教育方針を再確認し、新年度の教育重点目標の達成に向けて歩み出し、教職員一人ひとりが新たな気持ちで建学の精神を日々の教育の中に具現化していくことを目的として開催された。本学教職員も参加した。

7. FD関連研修会への参加

大学コンソーシアム京都が主催するFDフォーラム「DX・AI時代の高等教育のゆくえ」にFD担当部署である学務部委員会に所属する教員が参加した。また、学務部委員会において情報の共有を行った。

明海大学

浦安キャンパス FD・SD 委員会

佐々木 文彦

明海大学浦安キャンパスにおける FD・SD 活動は、浦安キャンパスの共通の課題に取り組む全体の活動と、各学部・学科・教育センターがそれぞれの専門領域と問題点を見据えて行う活動の2種類が例年行われてきた。

2023年度は、浦安キャンパス FD・SD 委員会が中心となって行う「2023年度浦安キャンパス FD・SD 研修会」を全4回実施した。また、「授業評価アンケート」について、学部では前学期2回、後学期2回の計4回実施し、大学院では1回実施した。

本稿では、併せて各学部・学科・教育センターによる FD・SD 活動についても報告する。

1 第1回浦安キャンパス大学院・学部 FD・SD 研修会

(1) 開催日時：2023年8月2日（水）13:00～14:30

(2) テーマ：「外部資金（科研費）と研究倫理」

(3) 説明者

副学長 藤内 祝

歯学部 教授 天野 修

理事 丸山 高人

庶務課 課長補佐 前田 洋佑

2 第2回浦安キャンパス大学院・学部 FD・SD 研修会

(1) 開催日時：2023年11月30日（木）14:40～15:25

(2) テーマ：「2023年度入試分析からみる入学学生の傾向と在学生の学修状況等について」

(3) 説明者

アドミッションセンター長 下田 直樹

副アドミッションセンター長 齋藤 千尋

3 第3回浦安キャンパス大学院・学部 FD・SD 研修会

(1) 開催日時：2023年12月21日（木）16:00～17:00

(2) テーマ：「どうすればいいの？ 学生理解と多様性尊重-合理的配慮提供の法的義務化について」

(3) 説明者

保健管理センター所長 吉川 正芳

外国語学部 教授 樋口 倫子

不動産学部 教授 杉浦 雄策

4 第4回浦安キャンパス大学院・学部 FD・SD 研修会

(1) 開催日時：2024年2月13日（火）14:00～15:30

(2) テーマ：「なぜ学修成果の可視化をするのか（そのための組織作りを含めて）」

(3) 講演者：

株式会社学びと成長しくみデザイン研究所

濱野 史雄

5 授業評価アンケート（学部）

(1) 実施時期：年4回

ア 前学期第1回

2023年5月15日（月）～5月27日（土）

イ 前学期第2回

2023年7月3日（月）～7月15日（土）

ウ 後学期第1回

2023年10月9日（月）～10月21日（土）

エ 後学期第2回

2023年12月11日（月）～12月23日（土）

(2) 実施方法

アンケートは、学生が PC 又はスマートフォン等を利用してアンケート実施期間中の任意の時間に Web ポータルシステムから回答する。

(3) 実施授業科目

専任教員及び非常勤教員が担当する学部授業科目。（ゼミの授業科目、履修者数5名以下の授業科目及び再履修者のみが履修する授業科目を除く。また、1教員あたり同一名称科目が複数ある場合は、履修者最多の授業科目を対象とする。ただし、FD・SD 委員長が必要と認めた授業科目は追加できる。）

(4) 内容及び評価方法

対面授業でのアンケート内容とし、評価方法は、指導の適切さ等に関するもの（配布物の読みやすさ、教員の授業に対する意欲や熱意等）及び学生の学びへの準備と深まり等に関するもの（授業1回あたりの予習・復習時間、授業に積極的に取り組んだか等）について、学生が匿名での五段階の評価をしている。その他、自由記述欄も設けている。

(5) 学生へのフィードバック

各教員によるコメントを学内ホームページにて公開し、学生に知らせている。

(6) 教員へのフィードバック

各 FD・SD 委員が現状分析及授業改善策を検討した上で、FD・SD 委員会で全体の結果分析及び改善策を

まとめ（総論）、FD・SD委員長から各学部・学科・教育センターを通じて各教員に知らせている。

(7) 実施結果等

- ア 前学期第1回：614科目対象／回答率40.6%
- イ 前学期第2回：612科目対象／回答率31%
- ウ 後学期第1回：607科目対象／回答率33.7%
- エ 後学期第2回：615科目対象／回答率28.7%

6 授業評価アンケート（大学院）

(1) 実施時期：年1回

2023年7月3日（月）～7月15日（土）

(2) 実施方法

アンケートは、学生がPC又はスマートフォン等を利用してアンケート実施期間中の任意の時間にWebポータルシステムから回答する。

(3) 実施授業科目

専任教員が大学院で担当している講義科目（特別演習、特別研究及び履修者2名以下の科目は除く。）のうち、履修登録者数が最多の1科目

(4) 内容及び評価方法：教員の指導の適切さ等に関するもの（説明の分かりやすさ、教員の授業に対する意欲や熱意等）及び学生の学びへの準備と深まり等に関するもの（授業1回あたりの予習・復習時間、満足の度合い等）について学生が匿名で5段階評価をして回答する。その他、自由記述欄も設けられている。

(5) 学生へのフィードバック

各教員によるコメントを学内ホームページにて公開し、学生に知らせている。

(6) 教員へのフィードバック

浦安キャンパス研究科連絡・調整会議で全体の結果分析及び改善策をまとめ、各教員に知らせている。

(7) 実施結果等

22科目対象／回答率81.6%

次に、2023年度に各学部・学科・教育センターが独自に実施したFD・SD活動、特に研修会やワークショップ等について紹介する。

1 外国語学部日本語学科

(1) 日本語学科FD・SD研修会

- ア 開催日：2023年9月5日（火）
- イ 講演者：田尻 英三 氏（龍谷大学名誉教授）

ウ テーマ：登録日本語教師と教員養成

(2) 日本語学科FD・SD活動

- ア 開催日：2023年9月15日（金）～2024年2月14日（水）
- イ テーマ：CEFR-CV（補遺）の解釈について

2 外国語学部英米語学科

(1) 英米語学科FD・SD研修会

- ア 開催日：2023年10月12日（木）
- イ 講演者：西山 聖久 氏（タシケント工科大学副学長）
- ウ テーマ：機械翻訳、大規模言語モデルと英語教育

(2) 英米語学科FD・SD活動

- ア 開催日：2023年11月9日（木）
- イ テーマ：英語ライティングの現在と今後の課題

3 外国語学部中国語学科

(1) 中国語学科FD・SD研修会

- ア 開催日：2023年9月11日（月）
- イ 講演者：藤澤 太郎 氏（桜美林大学准教授）
- ウ テーマ：リベラルアーツ教育と中国学-桜美林大学中国文学科・リベラルアーツ学群の改組事例紹介を中心に

(2) 中国語学科FD・SD活動

- ア 開催日：2023年12月14日（木）、2024年1月11日（木）、2月7日（水）
- イ テーマ：中国語検定過去問題の調査と分析

4 経済学部経済学科

(1) 経済学科FD・SD研修会

- ア 開催日：2023年12月14日（木）
- イ 講演者：脇 貴典 氏（筑波大学助教）
- ウ テーマ：指導に合理的配慮が必要な学生の支援についてのセミナー

(2) 経済学科FD・SD研修会

- ア 開催日：2024年2月8日（木）
- イ 講演者：青木 滋之 氏（中央大学教授）
- ウ テーマ：「ディスカッション」や「ディベート」の効果的導入についてのセミナー

- 5 不動産学部不動産学科
不動産学科 FD・SD 活動
- (1) 開催日：2023年6月22日（木）、7月20日（木）、
8月22日（火）
- (2) テーマ：アクティブラーニング講習会
- 10 教職課程センター
教職課程センターFD・SD 研修会
- (1) 開催日：2024年2月4日（日）
- (2) 講演者：露口 健司 氏（愛媛大学教授）
- (3) テーマ：「子供を取り巻くつながりが生み出すウェルビーイング」
- 6 ホスピタリティ・ツーリズム学部ホスピタリティ・
ツーリズム学科
- (1) ホスピタリティ・ツーリズム学科 FD・SD 研修会
- ア 開催日：2023年9月1日（金）
- イ 講演者：今野 博之 氏（JA いちかわ代表理事
組合長）
- ウ テーマ：「JA いちかわのあゆみと今後について」
- (2) ホスピタリティ・ツーリズム学科 FD・SD 活動
- ア 開催日：2024年2月7日（水）
- イ テーマ：「IT パスポートについて」
- 7 保健医療学部口腔保健学科
口腔保健学科 FD・SD 研修会
- (1) 開催日：2023年7月20日（木）
- (2) 講演者：山田 小枝子 氏（全国歯科衛生士教育
協議会理事）
- (3) テーマ：歯科衛生士国家試験対策と学生募集対策
- 8 総合教育センター
- (1) 総合教育センターFD・SD 研修会
- ア 開催日：2023年8月29日（火）
- イ 講演者：田澤 実 氏（法政大学教授）
- ウ テーマ：キャリア教育を考える ～キャリア教育
研究と本学でのキャリア教育～
- (2) 総合教育センターFD・SD 研修会
- ア 開催日：2024年2月13日（火）
- イ 講演者：島崎 雅史 氏（株式会社リアセック）
- ウ テーマ：PROG を活用した学生の成長支援について
- 9 多言語コミュニケーションセンター
多言語コミュニケーションセンターFD・SD 活動
- (1) 開催日：2023年8月1日（火）～2024年1月31日
（水）
- (2) テーマ：エクセル関数を活用した成績のデータ分
析に関する研修

国際武道大学

FD部会長 丸橋 利夫

本学のFD・SD活動は、「内部質保証検討委員会」の下に設置する「FD部会」が中心となり企画・運営を行い、教育研究活動及び教育方法等の改善を図り、内部質保証の向上に努めている。

コロナ禍のため昨年度までは多くの研修会をオンライン開催としていたが、2023年度は、対面方式または対面及びオンディマンズのハイブリッド方式で実施した。

◎2023年度の活動状況は次のとおりである。

- 6月・FDネットワーク“つばさ”FD協議会
- 7月・前期「学生による授業評価アンケート」の実施
- 1月・後期「学生による授業評価アンケート」の実施
 - ・「障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー」を開催
- 2月・卒業時アンケートの実施
 - ・「コンディショニングセミナー兼FD・SD研修会～アンチ・ドーピング講習会2024」を開催
- 3月・「正しく理解する令和時代のハラスメント対策研修会」を開催
 - ・「BLS（一次救命処置）講習会」を開催
 - ・FDネットワーク“つばさ”FD協議会

◎2023年度の取り組みの詳細は次のとおりである。

1. FD・SD研修会の開催

障害者差別解消法の改正にともない、同法に関する理解を深めるため、独立行政法人日本学生支援機構がオンディマンズ配信する「障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー」の視聴をFD・SD研修会として実施した。

また、安心・安全な大学づくりとして毎年度継続して実施している「BLS（一次救命処置）講習会」（講師：本学山本利春教授、笠原政志教授、清水伸子助教）を今年度も開催した。

2. 合同研修会の開催

「コンディショニング部会」及び「ハラスメント対策部会」との合同研修会を次のとおり開催した。

FD部会とコンディショニング部会の共催により、「2023年度コンディショニングセミナー兼FD・SD研修

会～アンチ・ドーピング講習会2024」を、錦織功延氏（（一社）日本女性アスリート協会参事、公認スポーツファーマシスト）を招き、対面及びオンディマンズにて開催した。

前述の「BLS（一次救命処置）講習会」と同様に本研修会は、体育系大学に従事する教職員として必要不可欠な知識及び技能を習得する機会であり、大変有意義な研修となった。なお、「アンチ・ドーピング講習会2024」には教職員の他に多くの学生も参加した。

また、FD部会とハラスメント対策部会の共催により、「正しく理解する令和時代のハラスメント対策」として、北村まり氏（精神保健福祉士、公認心理師）を招き、現代の複雑化するハラスメントに関する考え方や防止対策等について講習会を開催し、学生対応ならびに健全な職場環境の整備をしていくうえで、非常に有意義な研修であった。

3. 各種アンケート調査

・学生による授業評価アンケートの実施

大学ポータルサイトを活用した学生による「授業評価アンケート」を前期と後期に実施した。自由記述を重視するアンケートとしており、学生たちから多くの貴重な意見が寄せられた。

・卒業時アンケートの実施

オンラインアンケートフォームを活用し、卒業予定の学生を対象に「卒業時アンケート」を実施した結果、8割を超える回答を集めた。また、「国際武道大学で学んでよかったと思いますか」という問いに対して、「とてもよかった、よかった、まあまあよかった」と回答した割合が、90%という高い数値を得る結果となった。

BLS（一次救命処置）講習会の様子



帝京平成大学

FD 委員会委員長 小松俊哉

I. はじめに

本学は東京都と千葉県に4キャンパスを有する5学部18学科からなる総学生数約1万人の総合大学であり、「実学」の精神を基とする建学の精神に則り、医療・健康・福祉・教育・経営・情報等の分野で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。以下、本年度の本学におけるFD活動についてその概要を報告する。

II. FD 委員会の年間活動方針

本年度の第1回FD委員会において、以下の「年間活動方針」を決定し、それに基づき種々の取り組みを行った。

- ① キャンパス横断的な全学的FD活動推進の取り組み
- ② 各キャンパスのFD委員会機能の活性化
- ③ 学生の主体的・能動的学びを促す授業への積極的な取り組み
- ④ ICT を活用した効果的・効率的な授業への積極的な取り組み
- ⑤ 授業改善に資する情報の収集・分析への組織的な取り組み
- ⑥ FD活動とSD活動の協働・連携を前提とした活性化
- ⑦ 教務委員会、教学マネジメント室教育開発部門及び学修支援センターとの連携強化

III. FD 活動関連の恒常的な取り組み

1) 公開研究授業

本学では、原則1教員あたり年間1回以上、授業を公開することとしている。授業参観者・公開者のアンケートの回収には、学修支援システム manaba (株式会社朝日ネット) を利用した。キャンパス毎の公開授業数、公開期間、参観者数は以下のとおりである。

【前期】

池袋：102, 6月12日～7月7日, 267
 中野1Q：19, 5月15日～5月26日, 22
 中野&2Q：103, 6月12日～6月23日, 168
 千葉：41, 6月12日～6月23日, 163

【後期】

池袋：57, 10月30日～11月24日, 253
 中野3Q：13, 9月25日～10月6日, 20
 中野&4Q：123, 10月30日～11月24日, 152
 千葉：56, 10月30日～11月24日, 175

2) 「学生による授業評価」アンケート

本学では、原則、全開講科目についてアンケートを実施しており、学生ポータルサイト UNIVERSAL

PASSPORT (日本システム技術株式会社) 上で実施した。リフレクション・シートについても同システム上で実施した。キャンパスごとの実施時期、実施科目数は以下のとおりである。

【前期】

池袋：7月7日～7月30日, 569
 中野1Q：5月8日～6月4日, 24
 中野&2Q：7月7日～7月30日, 844
 千葉・ちはら台：7月7日～7月30日, 401

【後期】

池袋：12月6日～1月7日, 644
 中野3Q：10月30日～11月12日, 20
 中野&4Q：12月6日～1月7日, 935
 千葉：12月6日～1月7日, 372

3) FD/SD 研修会

①対面および Teams 配信での講演と、学修支援システム manaba 上でのオンデマンド視聴との併用で、第1回FD/SD研修会を開催した。

- ・講演およびライブ配信日：10月27日
- ・オンデマンド配信日11月2日～11月30日
- 内容：「教育効果を高めるICTツール(LMS・テキストマイニングソフト・生成系AI等)を活用した実践報告と各機能紹介」
- ・参加者数：181名(オンデマンド視聴含む)

②対面および Teams 配信での講演と、学修支援システム manaba 上でのオンデマンド視聴との併用で、第2回FD/SD研修会を開催した。

- ・講演・パネルディスカッションおよびライブ配信日：11月22日
- ・オンデマンド配信日11月29日～12月31日
- 内容：「生成系AIの利用現状と課題と可能性」
- ・参加者数：164名(オンデマンド視聴含む)

IV. 学外研究会・講演会等への参加と学内での情報共有

1) FD ネットワーク “つばさ” 関係

- ①第30回FDネットワーク “つばさ” “FD協議会”
 6月30日にオンラインで開催。FD副委員長と事務局担当者が参加した。
- ②第4回「週刊・授業改善エッセイ」
 FD委員が「本学におけるデータサイエンス基礎教育の現状と展望」というタイトルで寄稿した。
 (URL:<https://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/tsubasa/essei/05-04.html>)
- ③第31回FDネットワーク “つばさ” “FD協議会”

3月15日にオンラインで開催。FD委員長と事務局担当者が参加した。

④FD ネットワーク"つばさ"研究年報

3月22日、FD委員長が寄稿した。

2) 私立大学情報教育協会関係

①私立大学情報教育協会総会

3月28日、5月31日、11月30日の総会に本学代表が出席した。

②2023年度ICT利用による教育改善研究発表会

8月25日にオンラインにて開催され、本学教員が「地域のゴルフ場運営管理会社と連携した低学年向け課題解決プロジェクトの取組」と題して発表し、また、FD委員会担当副学長、FD副委員長、FD委員2名が参加した。

③2023年度教育イノベーション大会

9月5日～7日にオンラインにて開催され、本学教員、FD委員2名が参加した。

3) その他

①2023年度全国私立大学FD連携フォーラム シンポジウム

6月17日に開催され、FD副委員長、FD委員4名が参加した。

V. 「FD NEWSLETTER」

本学FD活動に係るニュースレターを2024年3月31日に刊行した。

北里大学

高等教育開発センター長 江川 徹

本学では、全学のFD活動を、大学の附属施設の一つである「高等教育開発センター」が中心となって実施している。2023年度は同センターにおいて、以下の事業を実施した。今年度になって新型コロナの影響を完全に脱し、全ての行事の開催が対面で行われるようになった。

1. 講演会・研修会等の開催

(1) FD講演会（参加者：動画閲覧者を含め153名）

2023年7月25日（火）に、東京都市大学デザイン・データ科学部の河合孝純教授による講演会「東京都市大学でのデータサイエンスリテラシー教育の取り組みとこれから」が開かれた。本学の「北里大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」が文部科学省の認定を得たことを受け、今後の活用についての指針を得るためのものである。講演の後にも活発な質疑応答がなされた。

(2) 新任教員研修会の開催（参加者：1日目35名、2日目32名）

2023年8月7日（月）・8日（火）の2日間、人事部との共催で、開催した。実施方式は今回から白金キャンパスでの対面形式に戻った。

1日目は理事長及び学長による本法人や本学の現況、本学の教員としての心構えなどについての講話ののち、外部トレーナーによる研修と、目指す教員像についてディスカッションなどを行った。

2日目の午前中は学内教員による「最近の学生気質と学生相談の傾向」「学生調査結果に見る本学の学生像」の講演が行われた。午後からは午前の講演を受け「学生とどう向き合うか」についてのグループワークを行なった。

(3) ChatGPT研修会（参加者：動画閲覧者を含め130名）

2023年8月22日（火）に、理学部・理学研究科と合同開催の形で、慶応大学生命情報学科の榎原康文教授によるChatGPT研修会が開かれた。今年度から色々な場面で使われるようになった生成型AI、ChatGPTについて、そもそもどのようなものなのか、教育の場でどのように活かせるか、などについての話を聞くことができた。

(4) FD講演会（参加者：116名）

2024年2月21日（水）に本学学生指導委員会との共

催で、東京工業大学保健管理センター安宅勝弘教授による講演会「大学における自殺対策について -学生支援および危機対応の一環として-」が開催された。同趣旨の講演は数年前にも開かれているが、学生の自殺防止については定期的な啓発が必要との判断から開催された。

(5) ゲートキーパー講演会（参加者：92名）

2024年3月8日（金）に、2月の講演会に引き続き本学学生指導委員会との共催で、東京工業大学保健管理センター川島義高准教授による「ゲートキーパー講演会」が開催された。自殺予防の実践者としての「ゲートキーパー」についての詳しい説明がなされた。

2. アンケート等の実施

(1) 学修等アンケート

2023年度の全学部学生を対象に、学生の学習、大学生活の実態と意識を調査分析し、教学運営や学内生活環境の改善を目的とするアンケートを実施した（実施期間：2023年11月～2024年1月）。2021年度に実施方法をオンラインとしてから回答率が低下し、対策として昨年度より回答学生に抽選でギフトカードを贈呈しているが、回答率の改善は見られず今後の課題である。

3. 冊子等の発行

(1) レポート作成のためのガイドライン

今年度は、レポートの書き方に悩む学生のための小冊子『レポート作成のためのガイドライン』の内容を大幅に改訂し、ChatGPTの扱いなどを加筆した。新版は2024年度入学者から配付される。

(2) 年報

2022年度北里大学高等教育開発センター年報を発行した。本年報にはセンターの活動実績の概要のほか、上記2.(1)の「北里大学における学修等に関するアンケート」の調査結果等も掲載しており、今後の教育改善に活用する。

(3) 叢書

上記1.(1)の「東京都市大学でのデータサイエンスリテラシー教育の取り組みとこれから」について叢書を発行した。1.(4)の「大学における自殺対策について -学生支援および危機対応の一環として-」についても叢書を発行する予定である。

神奈川大学

教育支援センター

神奈川大学教育支援センターは、体系的かつ組織的な教育研究体制を整備し、教育研究活動の成果の適切な点検・評価の実施と教育改善のための活動を推進することをもって、教育の質保証とその水準の向上を図ることを目的に2023年4月に神奈川大学教育支援センター規程を改正し、体制の見直しを行った。

新たな体制では、自己点検・評価活動の中核となる自己点検・評価全学委員会のほか、教育支援センターの下にFD・SD推進部会とIR推進部会を設置することで、FD・SD・教学IRを推進し、学部・研究科の教育水準の維持と改善を支える堅固な支援体制の構築を目指している。

新体制1年目となった2023年度のFD活動について、次の通り報告する。

(1) 教育改善のための学生による授業アンケート

2023年度は一部実施不可科目を除くすべての開講科目を対象に実施した。

[調査期間]

前学期 7月7日(金)～20日(木)
 夏季集中 8月1日(火)～9月14日(木)
 後学期 12月18日(月)～1月20日(土)

[アンケート総回答数 / 対象科目 (回答率)]

前学期 74,553 / 175,225件 (42.5%)
 夏季集中 57 / 721件 (7.9%)
 後学期 47,249 / 160,099件 (29.5%)

(2) 教育改善のための学生による授業アンケートの結果を用いた「優れた授業」事例集の作成

2023年度より授業アンケートの評価結果から選出した「優れた授業」について、履修学生と授業担当者のインタビューを通じて、授業運営の改善につながるような参考事例としてレポートを作成し、神奈川大学公式HP及び学内での共有を図った。

「優れた授業」は、①共通教養科目(「FYS」を除く)資格教育課程科目、②文系学部専攻科目(履修者数35名未満)、③文系学部専攻科目(履修者数35名以上)、④理系学部専攻科目、以上の区部に分け、授業アンケートの特定設問の合計得点の上位から1科目ごとを選出した。

(3) 学修状況調査

就職支援部が1～4年次を対象に実施するアセスメントテスト「GPS-Academic」にIR推進部会が設定した独自設問を加えて4月にアンケート調査を実施し、総合的に分析した情報を、自己点検・評価全学委員会及び各学部教授会

で報告した。

(4) ユニバーサルデザインの推進

「神奈川大学ダイバーシティ宣言」の精神にもとづき、教育環境におけるユニバーサルデザイン(UD)の推進として、UDフォントやカラーユニバーサルデザインの使用を推奨した。具体的には、希望する教職員への有償版UDフォント(50種以上)の付与や、各講義室への「UDチョーク」の配備を行った。

(5) 2023年度の主なFD活動(まとめ)

[FD研修会]

- ・第1回新任教員対象FD研修会
日時：4月1日(水)
内容：神奈川大学の基本方針及び教育研究等について
- ・第2回新任教員対象FD研修会
日時：5月24日(水)
内容：研究推進体制、TA・SA制度
- ・第3回新任教員対象FD研修会(大学院博士後期課程学生対象プレFD研修会と同時開催)
日時：9月27日(水)
内容：「障がい」の理解、障がいのある学生支援について

- ・第1回FD研修会(新任教員対象第4回と同時開催)
日時：11月15日(水)
内容：ジェンダー・セクシュアリティとダイバーシティへの理解を深める

[大学間FD連携][学生のFD参画]

- ・第9回ヨコハマFDフォーラム(横浜4大学連携)
日時：12月9日(土)
内容：大学教育の新たな展望：対面授業と遠隔授業の新たな教育モデルを検討する
本学学生発表：コロナ禍を経て体験した大学授業における各授業形式が与える効果(工学研究科博士前期課程1年)

[学外協議会・研修会等への参加]

- ・全国私立大学FD連携フォーラム シンポジウム
日時：6月17日(土)
内容：これまでのFDとこれからのFD—2040年代を見据えた課題と展望—
- ・第30回FDネットワーク“つばさ”FD協議会
日時：6月30日(金)
- ・大学コンソーシアム京都 2023年度第29回FDフォーラム
日時：2月23日(金)
内容：学びの連続体へのまなざし～生成系AIへの耐性・代替可能性を求めて～

群馬パース大学

FD 委員 中下 富子

本学は豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療職を育成することを目的として、国家資格を有する看護師・保健師・助産師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士を養成している。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症へと移行し、学生によるFD活動、FD研修会等、対面でのFD活動が積極的に展開できたので、報告する。

1. 学生による授業アンケート

授業改善に向けて、全学科全履修者を対象に「授業項目」「担当教員」「自分自身」に関する質問項目について学生による授業アンケートを実施した。アンケート結果は、昨年度より外部委託業者に依頼し、集計データより授業設計の段階からそのプロセスを振り返られるようフィードバックしている。

しかしながら、学生の前期授業アンケートの回答率は1年生では44.6%、2年生15.5%、3年生12.7%と学年が進むにつれて低下傾向にある。今年度、学生に働きかけアンケートの回答率を上昇させた学科もあり、この取り組みを来年度に活用することで回答率の上昇を期待したい。

2. 学外実習評価アンケート

学外実習評価アンケートは学科単位で実施している。学外実習は感染症対策については昨年とほぼ同様に行いつつ、従来通り病棟等で実習を行うことができた。実習指導改善に向けて「実習項目」「担当教員」「実習指導者」「自分自身」に関する質問項目について実施した。アンケート結果は各実習単位認定者にフィードバックした。

3. ピアレビュー

本学では授業について他者から評価、検証することで、相互に知識や授業内容・授業方法を共有し、授業改善に向けた取り組みを積極的に実施している。今年度のピアレビュー実施率は全体で47.5%であり、昨年度のより3.6%の上昇が確認された。学科によっては、ピアレビュー可能な授業科目について授業者の情報一覧を学科全体で周知して、授業公開者と見学者の交渉負担を減らした取り組みも見られ、ピアレビューには相互に学びやすい環境づくりが

必要とされる。

4. 学生FD推進

「授業改善・大学生生活向上のための交流会」として学生（13名）と教員（FD委員4名）の交流会（9月19日）を企画し実施した。参加した学生からは、授業科目やカリキュラム、自身の学びに関しての率直な意見が多くあげられ、活発に発表し合う様子が見受けられた。今後も定期的に意見交換の場を設け、学生の意見を積極的に聴取し、必要な情報や話題を大学側からも提供して行きたいと考える。

5. FD研修会

川越明日香氏（熊本大学大学教育統括管理運営機構・准教授）による「学修者本位の教育に向けたアクティブラーニングのコツ」をテーマにFD研修会（9月6日）を実施した。授業設計、授業方法、深い学びに向けた授業のコツについて体系的、かつ具体的な例を豊富に示し説明され、ワークショップもあり、体験的に研修を受けることができた。受講者からは「教育の全体像を理解できた」等の感想が得られ、大好評であった。

6. 教育研修体系による研修

ファーストレベルFD研修会（2月28日）として大学教育経験5年以内の教員を対象に開催した。二部構成で企画し、第一部は竹内一夫氏（群馬大学健康支援センター副センター長・教授）より「大学生のメンタルヘルス不調とその対応法」、第二部はFD研修会に引き続いて川越明日香氏より「ルーブリックによる授業評価」をテーマに実施した。竹内氏の講演については「多様化している大学生への対応法について専門医として最新の情報を聞いた。」また川越氏の講演については「確かなエビデンスのもとに授業を振り返るいい機会となった。」等、好評な感想が寄せられた。

研修会の当日に学科によっては、実習指導等で参加が不可能な教員もみられたが、録画を聴取してもらうことで補充した。

7. FDネットワーク“つばさ”令和5年度「週刊・授業改善リレーエッセイ」への投稿について

医療技術学部臨床工学科丸下洋一助教にご執筆いただき、掲載された。

第3章

F D 協議会

第30回 FDネットワーク“つばさ”FD協議会

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部
 山形県立保健医療大学
 山形県立米沢栄養大学
 東北文教大学
 山形県立米沢女子短期大学
 鶴岡工業高等専門学校
 会津大学
 東日本国際大学
 会津大学短期大学部
 桜の聖母短期大学
 筑波技術大学
 群馬パース大学
 明海大学
 国際武道大学
 人間総合科学大学
 日本保健医療大学
 帝京平成大学
 神奈川大学
 関東学院大学
 山形大学

はじめに

令和5年6月30日(金)に、第30回FDネットワーク“つばさ”FD協議会を対面及びZoomによるオンラインのハイブリッド形式で開催し、28校57名の出席があった。

はじめに、栗山FD運営協議会議長から、FDネットワーク“つばさ”の令和4年度事業報告や令和5年度事業計画などについて説明があった。

次いで、第2部の事例紹介では、山形大学より「データサイエンス教育研究推進センターの取り組みについて」及び「基盤力テストについて」紹介があった。

(1) スケジュール

日時：令和5年6月30日(金) 15:00～17:00

方法：対面及びZoomによるオンラインのハイブリッド形式開催

[第一部：協議会] 15:00～15:15

- 1 FDネットワーク“つばさ”協議会要項の一部改定について
- 2 令和4年度事業報告について
- 3 令和5年度事業計画(案)について
- 4 報告
- 5 その他

[第二部：事例紹介] 15:30～17:00

「データサイエンス教育研究推進センターの取り組みについて」

山形大学学術研究院理学部 教授 脇 克志

「基盤力テストについて」

山形大学学術研究院 教授 浅野 茂

(配布資料)

資料	参加者名簿
資料 1	FDネットワーク“つばさ”FD協議会要項
資料 2	令和4年度FDネットワーク“つばさ”事業報告
資料 3	令和5年度FDネットワーク“つばさ”事業計画(案)
資料3-1	令和5年度「週刊・授業改善リレーエッセイ」 執筆担当校(案)
資料3-2	令和5年度学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」の開催について(案)
参 考 資 料	FDネットワーク“つばさ”加盟校一覧
事例紹介1	データサイエンス教育研究推進センターの取り組みについて
事例紹介2	基盤力テストについて

(2) 出席加盟校一覧

札幌大学

札幌学院大学

北翔大学

青森公立大学

青森中央学院大学

八戸学院大学

富士大学

仙台大学

第31回 FDネットワーク“つばさ”FD協議会

山形大学

はじめに

令和6年3月15日(金)に、第31回FDネットワーク“つばさ”FD協議会をZoomによるオンライン形式で開催し、17校26名の出席があった。

はじめに、事務局から、FDネットワーク“つばさ”の令和5年度事業報告について説明があった。

次いで、第2部の事例紹介では、山形大学より「FDネットワーク“つばさ”」と「山形大学IE推進センター」との関わりについて紹介及び「令和5年度学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」動画紹介」があった。

(1) スケジュール

日時：令和6年3月15日(金) 13:30～15:00

方法：Zoomによるオンライン形式開催

[第一部：協議会] 13:30～14:00

- 1 令和5年度事業報告について
- 2 その他

[第二部：事例紹介] 14:00～15:00

- 1 「FDネットワーク“つばさ”」と「山形大学IE推進センター」との関わりについて
山形大学学術研究院 教授 浅野 茂
- 2 令和5年度学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」動画紹介
札幌大学学生チーム

(配布資料)

資料	参加者名簿
資料 1	令和5年度FDネットワーク“つばさ”事業報告
事例紹介 1	FDネットワーク“つばさ”とIE推進センターの関わりについて
事例紹介 2	令和5年度学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」参加報告書

(2) 出席加盟校一覧

札幌大学
 北翔大学・北翔大学短期大学部
 青森中央学院大学
 八戸学院大学
 富士大学
 仙台大学
 山形県立保健医療大学
 山形県立米沢栄養大学
 東北芸術工科大学
 山形県立米沢女子短期大学
 会津大学短期大学部
 桜の聖母短期大学
 明海大学
 国際武道大学
 帝京平成大学
 神奈川大学

FDネットワーク“つばさ”加盟校一覧

令和6年3月31日現在

<北海道>

1	札幌大学
2	札幌学院大学
3	北翔大学 北翔大学短期大学部
4	育英館大学

<東北>

5	山形大学
6	青森公立大学
7	青森県立保健大学
8	青森中央学院大学
9	青森中央短期大学
10	八戸学院大学 八戸学院大学短期大学部
11	富士大学
12	仙台大学
13	東北生活文化大学 東北生活文化大学短期大学部
14	仙台白百合女子大学
15	宮城学院女子大学
16	山形県立保健医療大学
17	山形県立米沢栄養大学
18	東北芸術工科大学
19	東北文教大学 東北文教大学短期大学部
20	山形県立米沢女子短期大学
21	羽陽学園短期大学
22	鶴岡工業高等専門学校
23	会津大学
24	東日本国際大学
25	会津大学短期大学部
26	桜の聖母短期大学
27	いわき短期大学

<関東>

28	筑波技術大学
29	茨城県立医療大学
30	群馬パース大学
31	明海大学
32	国際武道大学
33	了徳寺大学
34	文教大学
35	人間総合科学大学
36	日本保健医療大学
37	帝京平成大学
38	東京家政大学
39	東京家政学院大学
40	嘉悦大学
41	デジタルハリウッド大学
42	北里大学
43	神奈川大学
44	関東学院大学
45	湘南医療大学

<中部>

46	高岡法科大学
----	--------

<九州・沖縄>

47	沖縄県立芸術大学
----	----------